第３　目指す将来像

１　目指す将来都市像

区の基本構想では、おおよそ20年先に目指す「まちの将来像」を「さくら咲き　心地よいまち　ずっと　めぐろ」と定めています。

都市計画マスタープランでは、基本構想で掲げたまちの将来像の実現に向け、都市計画の視点からみた区の現状、主要課題などを踏まえて、20年後の将来都市像を以下のとおり掲げます。

多様な人が住まい・憩い・交わり
めぐろらしい「心地よさ」が生まれるまち

区内には、住宅都市として良好な住宅地が形成されているほか、目黒川や桜などに象徴される自然環境や歴史・文化施設、地域の商店街、個性的な店舗など都市を構成する多様な要素が存在します。それにより、住まう人・働く人・訪れる人の活動が交わり、目黒区ならではの個性をもつまちが形成されています。

都市を取り巻く環境が今後も大きく変化することが見込まれる中にあっても、都市としての普遍的な魅力を維持・向上させ、「めぐろ」に愛着をもつ多様な人々が住まい・憩い・交わることで、めぐろらしい「心地よさ」が生まれ続ける、そのような都市の実現を目指します。

また、多様な人々が自分らしく過ごせる、誰ひとり取り残さない快適で暮らしやすく、訪れやすい、多様性と包摂性を尊重した共生社会を実現する都市を目指します。

将来都市像である「多様な人が住まい・憩い・交わり　めぐろらしい「心地よさ」が生まれるまち」は、その実現に向けて、以下の４つの目指すまちの姿から構成されます。

――――将来都市像――――

多様な人が住まい・憩い・交わり
めぐろらしい「心地よさ」が生まれるまち

――――目指すまちの姿――――

目指すまちの姿１	目指すまちの姿２	目指すまちの姿３	目指すまちの姿４
落ち着きとゆとりのあるまち	高い利便性と活力を有するまち	美しさと安心を感じるまち	めぐろならではのカルチャーやビジネスが生まれるまち

＊→巻末用語集

目指すまちの姿１

～落ち着きとゆとりのあるまち～

住宅都市として比較的低層な建物や歩行者中心の道路の整備などのヒューマンスケール*のまちづくりを進め、落ち着きとゆとりのある良好な住環境や、まちなか環境の形成を目指します。

今後は、まちなかのオープンスペース*やサードプレイス*といった、人々が集い・憩える空間や場の確保を進め、ゆとりと心地よさのある環境を形成し、その魅力をさらに高めるまちを目指します。

＊→巻末用語集

目指すまちの姿２

～高い利便性と活力を有するまち～

駅周辺や幹線道路沿いなどを中心として、老朽化した建物の更新を促すとともに、地域の発展可能性をさらに高めるため、土地の高度利用のあり方や公共空間などの利活用を積極的に検討し、多様な暮らし方を実現する高い利便性を目指します。また、住宅、店舗、オフィスなどが適度に混ざり合う複合的な空間利用のまちづくりによって、様々な人々にとって便利で、都市としての活力となる賑わいの創出を目指します。

＊→巻末用語集

目指すまちの姿３

～美しさと安心を感じるまち～

目黒川や桜などに代表される地域資源やみどりが、人々を惹きつける魅力となっており、まちなかや公園を歩いたり、過ごしたりすることでその地域の美しさを身近に感じることができる空間の形成を目指します。

目黒の魅力である治安の良さを維持し向上させるとともに、自然災害に対応できる柔軟性のあるまちづくりによって、安全で安心な環境の形成を目指します。

＊→巻末用語集

目指すまちの姿４

～めぐろならではのカルチャーやビジネスが生まれるまち～

駅周辺や幹線道路沿いなどを中心に、その地域ならではの魅力ある多様な産業が立地し、居心地の良い賑わいの創出を目指します。また、音楽や芸能などの文化的な活動がしやすいまちなかの環境を整備するなど、多くの人々がつながり賑わう、魅力や個性にあふれたカルチャーやビジネスが生まれる空間の形成を目指します。

＊→巻末用語集

2　将来都市構造

将来都市構造は、まちの中心となる拠点や都市軸を位置付け、将来の都市の骨格を示すものであり、まちづくりの方針の前提となるものです。

「東京都市計画　都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）*」では、目指すべき東京の都市の姿と、その実現に向けた都市づくりの基本的な方針と具体的な方策が示されており、その中で、目黒区には中枢広域拠点域や、新都市生活創造域が位置付けられています。

図 24　東京が目指すべき将来像（４つの地域区分と２つのゾーン）

出典：東京都「東京都市計画　都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）」（令和３（2021）年３月）

＊→巻末用語集

「東京都市計画　都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）*」を踏まえ、区を構成する「拠点：あつまり」、「軸：つながり」の各要素を考慮し、目指す将来都市構造を次のとおり掲げます。

（1）　「拠点：あつまり」の設定

ア　広域生活拠点

商業・業務・住宅などの都市機能が集積し、また、鉄道や幹線道路などの交通基盤の結節点であり広域的な交通網でつながる拠点を「広域生活拠点」として、以下の４拠点を位置付けます。

＜大橋一丁目周辺地区＞

「大橋らしさを育み、住みたくなる街、訪れたくなる街づくり」を基本理念に、市街地再開発事業等によって整備された公共施設や公園、広場などの利活用に地域住民や事業者、エリアマネジメント組織*などと連携して取り組み、商業・業務・住宅機能の調和のとれた魅力ある環境を形成します。

＜中目黒駅周辺地区＞

「創造的コミュニケーションがあふれるまち」を基本理念に、駅周辺における都市基盤の整備や都市機能の更新を進めるとともに、職・住・遊・学の多様な機能が集積し、公共空間や民有地の広場・空地等を活用した公民連携のまちづくりの取組により、居心地が良く歩きたくなるまちなかを創出することで、多様な文化や交流が生まれるまちを形成します。

＜目黒駅周辺地区＞

駅周辺の商業・業務機能の集積を図るとともに、区有施設の更新を契機として、公共空間、目黒川の豊かな環境、歴史・文化資源等をまちの個性として活用することで、回遊性が高く、賑わいと落ち着きが共存するまちを形成します。

＜自由が丘駅周辺地区＞

「自由が丘らしさの継承と人にやさしいまちづくり」を基本理念に、都市基盤の整備や市街地再開発事業などにより、個性的で魅力あふれる駅周辺の商業・業務集積地としての機能強化と公共空間の利活用の取組を進めるとともに、みどり豊かで落ち着きのある住環境が調和する自由が丘らしいまちなか環境を形成します。

イ　地区生活拠点

地域の暮らしに密着した商業機能等やコミュニティ活動の場として活用可能な公共施設等が整備され、日常的な活動や交流の中心となる拠点を「地区生活拠点」として、以下の９拠点を位置付けます。

＜駒場東大前駅周辺地区＞＜祐天寺駅周辺地区＞＜学芸大学駅周辺地区＞
＜都立大学駅周辺地区＞＜武蔵小山駅周辺地区＞＜西小山駅周辺地区＞＜洗足駅周辺地区＞
＜大岡山駅周辺地区＞＜緑が丘駅周辺地区＞

＊→巻末用語集

ウ　めぐろの森

みどりに求められる役割の供給拠点として、区内で特に優れた自然環境を有する公園や大学等の既存の大規模緑地を中心に、「まちの樹林」や「いきものの庭」を含め、みどりの保全と緑化を推進する８つのエリアを「めぐろの森*」として位置付けます。

＜駒場野の森：駒場公園、駒場野公園、東京大学駒場キャンパス一帯＞

＜菅刈西郷山の森：菅刈公園、西郷山公園一帯＞

＜東山の森：東山公園、目黒天空庭園一帯＞

＜中目黒の森：中目黒公園、防衛省目黒地区一帯＞

＜下目黒不動の森：都立林試の森公園、目黒不動尊一帯＞

＜碑文谷の森：碑文谷公園、清水池公園、すずめのお宿緑地公園一帯＞

＜東が丘衾(ふすま)の森：駒沢オリンピック公園一帯＞

＜大岡山中根の森：東京工業大学大岡山キャンパス、中根公園一帯＞

＊→巻末用語集

（２）　「軸：つながり」の設定

ア　生活創造軸

幹線道路沿道で、個性的で魅力ある商業・業務機能が連なり、新たな暮らし方や文化を創造・発信する軸を「生活創造軸」として位置付けます。

＜山手通り沿道地区＞

商業・業務機能の維持と更新を進め、活力ある沿道商業・業務地の形成を図ります。

＜目黒通り沿道地区＞

個性的な商業施設の集積を進め、独特の魅力を有する沿道商業地の形成を図ります。

イ　都市活動軸（幹線道路・鉄道）

多様な都市活動を実現するため、広域的な交通アクセス機能の強化や幹線道路における沿道にふさわしい土地利用の誘導を図る幹線道路と鉄道を「都市活動軸」として位置付けます。

＜幹線道路＞

玉川通り、駒沢通り、目黒通り、山手通り、環七通りの沿道で、広域的な自動車交通の移動機能や、延焼遮断帯*などの防災機能、街路樹による連続的なみどりの空間形成、沿道における都市機能の集積を図ります。

＜鉄道＞

東急東横線、東急目黒線、東急田園都市線、東急大井町線、京王井の頭線、東京メトロ日比谷線、JR山手線など、高い交通利便性を有する鉄道網を、快適な都市間の移動を支える広域交通の主軸とし、沿道のまちづくりとあわせ、さらなる利便性の向上を図ります。

ウ　みどりの軸

潤いのある良質な都市環境や歩行者の回遊空間を形成する役割を果たすものとして、目黒川、緑道、幹線道路を中心とした軸を「みどりの軸」として位置付けます。

＜みどりの保全軸＞

目黒川や緑道及びその周辺の社寺や住宅等では、街路樹や社寺林、屋敷林等のみどりを保全するとともに、緑化を推進することで、みどりを生かした景観の形成を図ります。

＜みどりの創出・育成軸＞

山手通りなどの幹線道路では、沿道の建物の接道部や壁面・屋上等の限られた空間を生かした緑化を推進し、快適な歩行空間の形成や区を印象付ける沿道景観の形成を図ります。

＊→巻末用語集

図 25　将来都市構造

＊→巻末用語集